

「日々の理科」(第 2139 号) 2020, -5, 18

「巣の乗っ取り (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ヤマガラの巣を乗っ取ったシジュウカラは、ヤマガラとほぼ同じぐらいの大きさ（といっても体重は約 20g）だが、山にも里にも都会にも、ほとんど日本全国で「ツピーツピー」と鳴いている。



見分けは簡単で、胸の黒いネクタイが特徴だ。オスとメスの見分けも容易で、オスのネクタイは太く、メスのネクタイは細い。若干ヤマガラよりも強いので、今回の「巣の乗っ取り」でシジュウカラに落ち着くと思っていた。しかしまた展開があった。



シジュウカラの「夫婦」がヤマガラの巣を強奪したあと、またシジュウカラではない鳥が現れた。ヤマガラが不動産を奪還しに来たのかと思ったが、ヤマガラともちがう。穴に近づいては中の様子を伺っている。去ってはまた来る。コゲラ（キツツキの仲間）にも見えるが、体の模様がちがう。私は専門家に「鑑定」を依頼した。



鑑定の結果、これは「コムドリ」という野鳥とわかった。シジュウカラやヤマガラとはちがう仲間だが、樹洞性営巣で木の穴や、キツツキの開けた穴を使う。人工的な巣箱で営巣することもある。体も一回り大きく、ついにコムドリに巣を乗っ取られてしまった。



一件落着と思ったら、また一回り大きい別の鳥が来た。中を覗いたり、入口の穴を叩く行動も見られた。



これは「アオゲラ」だ。本家本物のキツツキの一種である。「もともと私の巣だ！」とばかり、あっという間にアオゲラに「賃借権」が移行してしまった。